

繪本通俗三國志

三編

四

122
271
38

東 京 圖 書 館

和書門

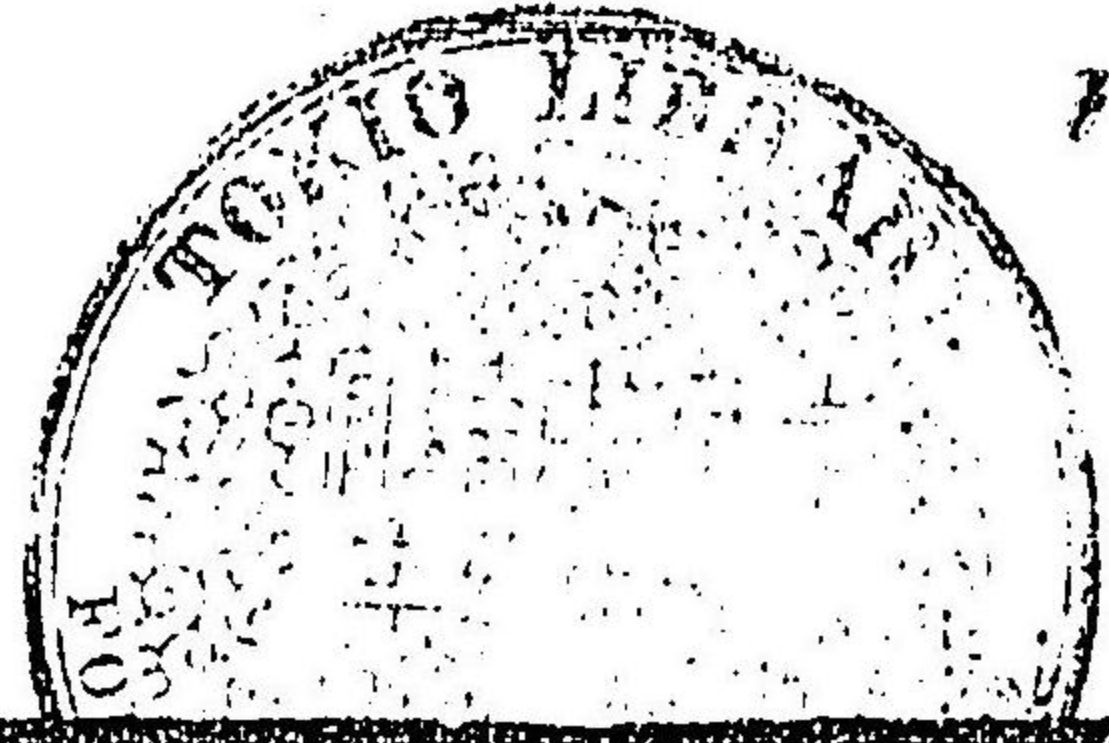
小說類

二六函

二六架

七八號

七五冊



繪本通俗三國志三篇卷之四

明治十年交換 目錄

玄德赴襄陽會

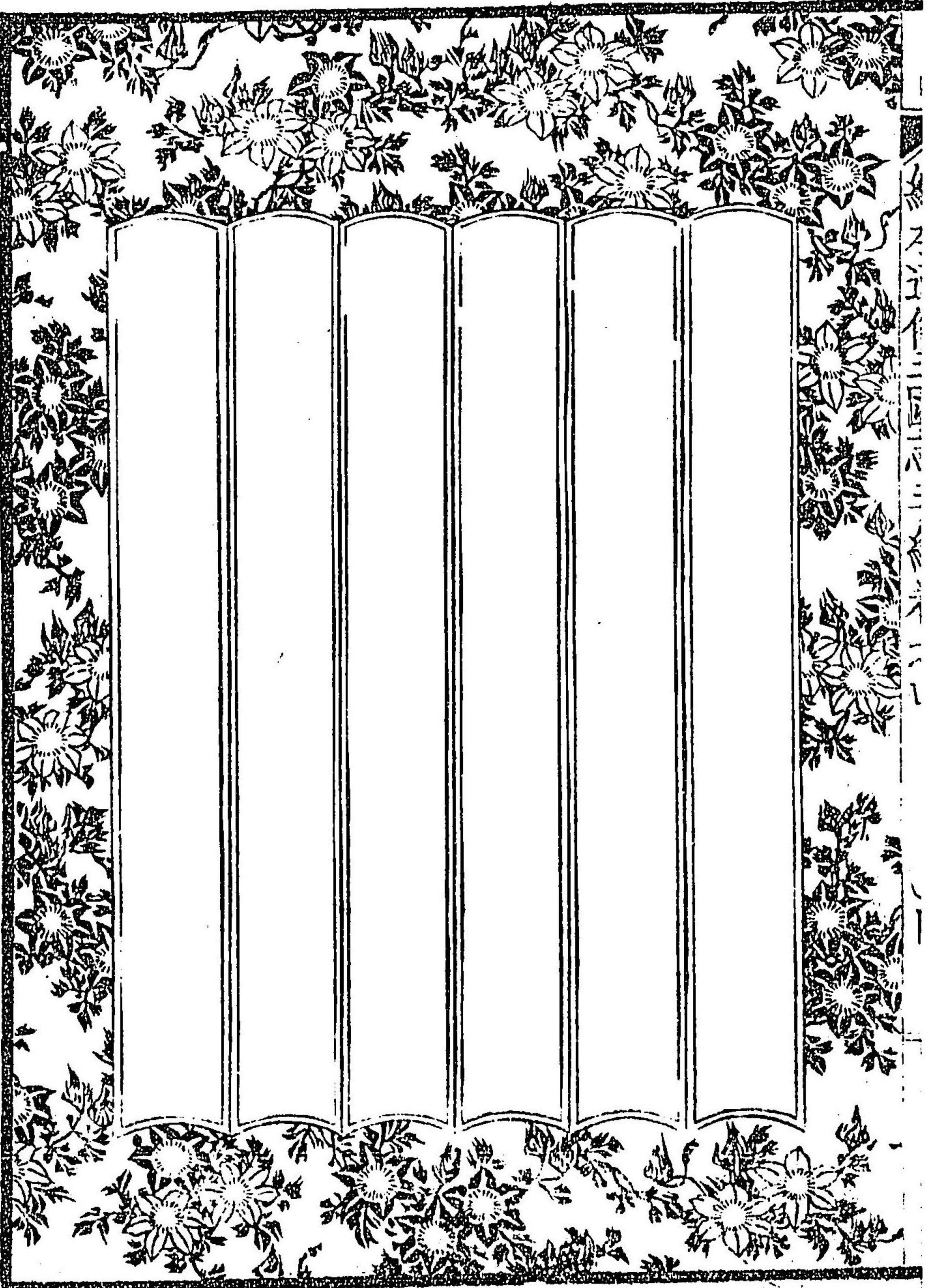
玄德羅馬跳檀漢

玄德到司馬徽山庄

玄德新野遇徐庶

繪本通俗三國志三篇卷之四

目錄



繪本通俗三國志三編卷之四

劉玄德赴襄陽會

劉玄德ハ汝南ニ没落ノ者。荆及ノ劉表セ頼ルベシヤル。劉表同宗ノ好ミ。弟あり。相親ミ。酒宴シテ居ル。早馬きた。江夏。張虎陳生二人。逆ニ入。虜掠シテ。荆及。告げ。劉表驚ヒ。平。常。今果シ。是。退治。劉表。喜。

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on a light-colored paper. It consists of several lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The text is somewhat difficult to decipher due to the cursive style and the presence of some illegible characters. The document is framed by a simple border.

欠

MISSING

劉表やるる。蔡夫人生まり。御辺の同宗の二類い。平生慎。事。御心。劉琦と産天性賢あり。後妻蔡夫人。劉琮と産。先。蔡氏の一族。

今たひ長子と立たり。後。心中は。立。夫人。

新編万葉集卷之四

あらず荆及び奪べ。蔡夫人志の著るるべしと同日は蔡
 瑁兵をくろく玄徳の旅館へ寄んとす。伊籍志のよしとほ
 たへま。そや告あらせと落さんととめいひまびいそだ客屋の
 行く。玄徳は低款なるの蔡瑁まのあ入あしよせとひそく伐
 せんを計る。すそやうは出と禍とぬなす入とそだをま計よ
 まど玄徳大よどろた夜よまびと新野の城は逃り介なひ
 なる。蔡瑁は語るもとの夢よまあふ事掌の内よりのこと
 の夜の五更よみよみよんぞ推寄四方とかあんぞ。玄徳よさか
 せども。さらは行方よまらざりしうか力よまむあしく引回し
 るが。俄に計と案ど出。一首の詩と作りと内は荆カして奪ん
 とまの意よめらへ。客屋の壁よ書付とた。いそだ劉表よ

へくやんる。玄徳言ていづかののるさぞと徳まあへん一首の詩
 と壁よ書と夜中よ逃去をりそや御んと決しと殺したま
 らし。いづたある禍と引出ん。劉表よまよまひとふあ
 し。みづから行とんるよその詩よ曰

困守荆襄已數年
 蛟龍豈是池中物

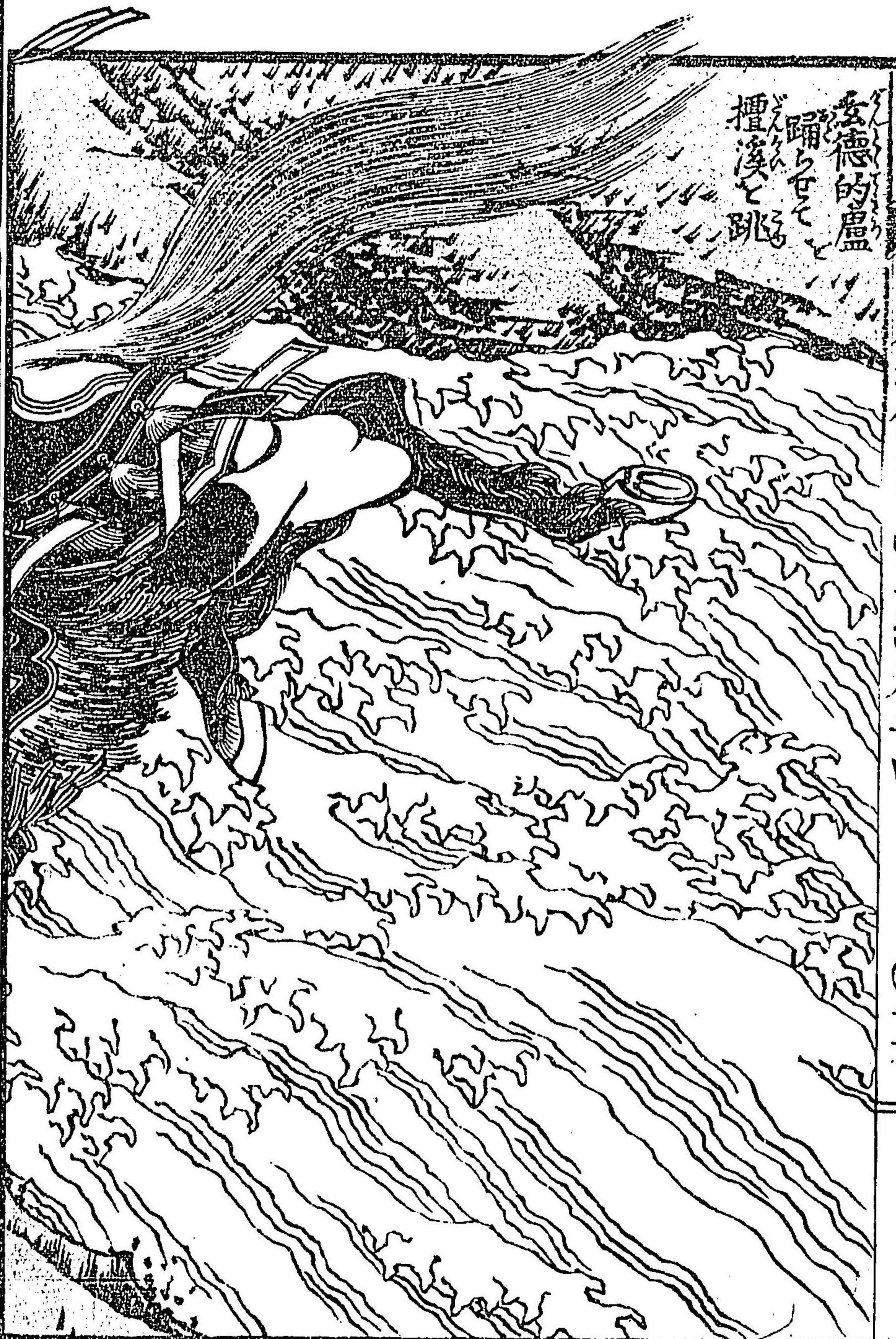
眼前空對舊山川
 臥聽風雷飛上天

劉表よまよとんるよの外の怒りよその詩よめめ彼らよとま
 みたまの。ま折言と殺とんとらひる。おくはまてく玄
 徳と交まど。卒らまが詩と作りたるよと。お余人の計
 あらんと。まあひらつが。劔よめらその詩と割り落し馬よのり
 へんよまら。蔡瑁よらるる兵の用意よとんるよの早

劉表を以て置たはつ。劉表は心して疑ひて告げん。
 玄徳の曰ふも是の如し。使とも行んともあり。
 張飛やんら無用く。襄陽の會は止なまひてある。
 孫がく行たも。趙雲曰ふ。行たまひてあり。
 某孫がくも。三百余騎は御供や。玄徳の愛さる。
 趙雲もまた。新野と八十里をうり。出たまひて。
 来はむ。心も。程は。女徳の懸念。
 劉琦。劉琮。兄弟。入。荆。
 王威。亦。引。と。
 趙雲。三百余騎。四方。
 某。父。此。間。

氣の疾と受く。今日會は出ると得た。尊叔と請。
 禮を行へ。玄徳の曰ふ。器はあらずと入。兄は。
 命辭も。主。席は。著。蔡瑁。
 蒯越は。心。根。
 世の身。雄。あり。後。あ。ず。國。の。災。は。あ。さ。ん。今日。酒。宴。の。席。
 打。殺。し。え。ず。災。の。ぞ。ん。と。あ。り。蒯。越。が。曰。は。罪。
 殺。さ。ん。望。し。あ。ん。蔡。瑁。曰。は。す。
 君。の。命。と。受。た。り。殺。さ。ん。叶。ま。ず。蒯。越。が。曰。は。君。の。
 命。あ。ら。ん。止。し。得。ん。ま。の。用。意。と。志。な。ま。へ。蔡。
 瑁。の。東。の。方。峴。山。の。路。と。蔡。和。は。五。千。余。騎。と。
 南。の。門。外。と。蔡。仲。は。三。千。余。騎。と。付。と。守。ら。ず。な。り。北。

玄德的盧
躍如奔
檀溪之跳



第一回 三國志

四

玄德



第一回 三國志

四

の今の命の風前の燈火より。あや危しとて入申る。伊籍
 盃をよめて玄徳の前より行き。目加せし。衣と着更た
 やと。いひかき。玄徳その意を悟り。やめり。廁へ行体
 と。後園より出たま入を。伊籍まづ侍受て低熱く。蔡瑁
 計とせざらし。君と討んと。城外南東北の三方より。あ
 大勢で伏たり。たゞ西の門をうり。いま兵とまき。早くまの路
 ずり。落させたま入。とぞ。兎とまき。叶ふ。ば。玄徳たふも。とら
 き。うまの的。盧を。後園を出た。たゞ一騎。西の門より。走た
 ま。門と。まの。まの。君の。入。行。な。ま。と。問。を。玄。徳。ま。ま。と
 ぶ。酒。を。ま。ま。と。た。入。と。い。な。と。後。と。も。久。り。ま。飛。が
 どの。走り。な。ま。番。立。ま。ま。の。ま。と。蔡。瑁。の。告。る。ま。ま。の。蔡

瑁。き。う。ま。馬。と。出。し。五。百。余。騎。と。門。を。見。る。玄。徳。二。里。を。う。り。行
 と。前。より。ある。後。あり。檀。溪。と。名。く。源。湘。江。と。通。下。く。白。波。天
 又。漲。り。ま。ま。と。い。う。と。渡。り。と。後。と。う。り。ま。ま。入。を。敵。軍
 まで。ま。ま。の。の。と。と。ま。外。ま。い。な。と。ま。ま。の。ま。ま。の。馬。と。ま。ま。と
 さ。の。と。打。入。た。ま。ま。水。の。勢。ひ。ま。ま。と。鞞。爪。の。ぬ。わ。ど。あ
 り。ま。ま。の。馬。の。頭。を。た。ま。ま。の。的。盧。的。盧。今。日。の。ま。ま。の。蔡
 と。ま。ま。の。努。力。や。と。い。な。ま。の。ま。の。馬。忽。ち。水。を。ま。ま。の。一。瀧
 三。丈。と。い。で。西。の。岸。より。あ。が。る。玄。徳。茫。然。と。し。西。の。霧。霧。の中。に。行
 が。と。く。馬。と。ま。ま。と。後。と。う。り。ま。ま。の。蔡。瑁。溪。と。高。く。劉。使。君
 いら。あ。ま。が。走。り。た。ま。ま。と。ま。ま。の。玄。徳。の。目。の。ま。ま。と。ま。ま。の
 伏。あ。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。蔡。瑁。の。目。の。ま。ま。と。ま。ま。の。ま。ま。の



玄德

玄德南漳
寺重



十歳さい龐統ちやうとうの字あざなの士元しげんといふ。師父しふあり。少せうと五歳ごさいあり。常じやう往來かうらいし。深ふかくまじつつる。そのあひだも。師父しふといふ。琴きんの業わざととりて居いたる。龐統ちやうとうきたり。もよ木陰きかげんに坐まして世間せけんの盛衰せいさいを論ろんず。朝あさより暮ゆふまでよぶまじ。倦うむる。玄徳げんたくの曰いはく。まじやすかち劉りう玄徳げんたくあり。孫そんがくる。汝なんぢが師父しふの家いへの伴ともあり。ゆひ童子どうじ半はんとす。め。此方こゝへきたり。なま入いと。まじやすかち劉りう玄徳げんたく二里にりをり。行ゆく。幽ゆうある廬いの童子どうじと彈ひきます。の馬まと門外かどはる。だ。立たち留どりてまじやすかち。六むつと琴きんを彈ひき。内うちより老人らうじん立たち出で。琴きんの調てう清せい幽ゆうあり。し。なちまじ殺伐さつぱくの響ひび音ねとある。つ。あらず。英雄えいゆうの武士ぶしに

そのまじやすかち。のあかちといひ。まじやすかち。玄徳げんたくあざらひく。まじやすかち。まじやすかち。松形しょうけい鶴骨かくといふ。氣き守しゅれあり。年としの五十ごをうり。とまじやすかち。顔色がんしよくあか。童子どうじのまじやすかち。あり。まじやすかち。まじやすかち。禮らいとまじやすかち。司馬し馬ま薇き衣いの湿ぬたる。まじやすかち。まじやすかち。今日けふ危あやむ。まじやすかち。のまじやすかち。まじやすかち。まじやすかち。童子どうじす。まじやすかち。劉りう玄徳げんたくまじやすかち。まじやすかち。司馬し馬ま薇きとまじやすかち。禮らいとまじやすかち。草堂そうたうまじやすかち。買か主しゅまじやすかち。玄徳げんたくその辺へでまじやすかち。架か上じやうの萬まん卷けんの詩書ししよと積つ密みつ外がいの松竹しょうちくと植う琴きんと石床いしじやうの上うへまじやすかち。朝あ然ぜんたる清氣せいきまじやすかち。塵世ちんせの外ああり。まじやすかち。路ぢまじやすかち。童子どうじのまじやすかち。尊そん顔げんが拜らいまじやすかち。司馬し馬ま薇き笑せう

曰くやうく。今日いふある難みのひひい。あはかきと結り
 たる人。玄徳のくさず。襄陽の事と結り。檀溪とまはりき
 なるよ。と告なす。司馬徽のくさす。將軍の気色
 なる。と告なす。いふある官職もくひ。玄徳の曰
 く。左將軍宜城亭侯豫及の牧あり。司馬徽の曰く。こ
 く將軍の御名できけり。いふある區として。形勢の路も
 奔走しなす。玄徳の曰く。時運不齊命途多舛故也。
 司馬徽の曰く。將軍と相從ふや。のびき人あり。てこ
 玄徳の曰く。不肖あり。といふ。文の孫乾。糜竺。簡雍
 あり。武の関羽。張飛。趙雲あり。忠と益と相佐く人あ
 して。や。司馬徽の曰く。関羽。張飛。趙雲。徒に騎當

千の勇も。權変の才も。あらず。孫乾。糜竺。簡雍。と
 たり。の。白面の書生。と。尋常。擲句。腐。儒者。あり。
 經綸。救世の士。あらず。あ。王霸の業。成人。あらず。玄
 徳の曰く。身と。函。山谷の賢人。を求。といふ。い。ま。その
 人を得ず。司馬徽の曰く。儒生。俗士の當世の時務と。な
 時務と。ある。と。俊傑とせん。玄徳の曰く。と。俊傑と
 いふ。司馬徽の曰く。漢の高祖の張良。蕭何。韓信
 と得。光武の鄧禹。吳漢。馮異。と得。なす。い。が。と。た。王
 霸の基と。い。俊傑とせん。玄徳の曰く。と。今
 の世。あ。の。人。司馬徽の曰く。と。孔子。十室
 之。臣。必有。忠。信。と。言。は。り。と。世。あ。の。ま。い。な。す。

趙雲數百騎
率之
玄德



ぞ玄徳の曰くも愚昧なりと云ふ事なきも終つて人
なま入司馬徽が曰くちかきる諸方ぞ小児の歌と云ふ事
なきもその歌の詞曰く

八九年間始欲衰
至十三年無子遺
泥中蟠龍向天飛

この歌の建安の初なり。今日まで、九年あり始欲衰の
の建安八年太守劉表本の夫人と喪す。家たんとあり乱
る十三年無子遺と云ふ事す。劉表逝去す武
の官人零落すと。子孫あつく滅すと。天命有所皈と云
將軍の身も皈するあり。玄徳大と云ふことひく曰く、
たまふ當ると云得入司馬徽が曰く、天下の英才と云ふ

あの為の心ある將軍と云ふことわちひて大業とありなき玄徳の
曰く、その名と云ふ司馬徽が曰く、伏龍鳳雛の中と云
得たまふ天下の掌と云ふこと玄徳問と曰く、伏龍鳳雛とい
うある人ぞ司馬徽大と云ふこと手と云ふこと好くといふこと
と云ふこと司馬徽の善悪と云ふことなきことあり、好くとい
好くといひ、あること人きたなりと。その子の死するよしと告げ
るよし、好くといひ、ひきまざるの妻と云ふことと云ふこと、
こお君の徳と云ふこと、またひきたなりと告ぐるよし、おまはる子
の死たること、好くといひ、ひきたまふこと、司馬徽まらぬこと、女
言ひまた好くといひ、ひき、玄徳志なりと、伏龍鳳雛と云ふ
たまふ司馬徽や、ひき、今夜ひき、一宿したまふ、明日

中として童子とてし。酒食たててめづせらるる。女徳
 として臥房に入らば入り。去りまじむ。司馬徽がひいて。余
 とてんぞ。敢てひつと能はず。夜いたく深なる。屋の後。馬乃
 嘶音一と。外より人のきこまる。俸ありたるをばあへんぞ。
 ひつとまきけ。司馬徽問。や。や。徐元直いひて。来
 まるぞ。答と曰く。荆及の劉表の善善惡惡人あり。安
 し。わとま。ま。ま。仕んとて。ひ行とま。入ら。ゆ。ゆ。實あり
 る。あつ。まの。人。回。り。きた。ま。司馬徽が曰く。善善惡惡
 者人の善あり。あつ。人。仕。へ。ざる。ま。た。入。り。曰く。善善
 ても。不。能。用。惡。惡。も。不。能。去。る。ま。ま。の。ゆ。へ。貴。書。し
 と。逃。ま。きた。ま。司馬徽あつて曰く。ま。ま。今。漢。室。衰。へ

賢愚混雜千戈日く。ま。ま。を。ひ。起。り。禍。乱。を。ち。て。生。ま。す。汝。王
 佐の才とて。ま。ま。時。を。ま。ひ。て。出。ま。ま。美。王。と。め。り。て。石。死。と。り。人
 又賣んとて。ま。ま。へ。ひ。て。辱。め。り。み。む。ま。ま。を。お。ち。汝。が。過。へ
 ま。ま。と。人。の。過。の。ひ。あ。り。善。善。も。わ。ち。の。か。と。あ。つ。ま。ま。と。い。ふ
 へ。あ。ま。ま。調。多。ず。る。古。子。貢。が。有。美。王。于。斯。韞。匱。而。藏。諸。求
 善。價。而。沽。諸。と。い。ひ。汝。が。事。あり。英雄。豪。傑。い。は。眼。前。の
 の。り。あ。つ。と。ま。ま。と。い。ひ。劉。表。み。見。へ。る。ま。ま。と。い。ひ。ま。ま。先。生
 の。言。ま。と。ま。ま。當。然。あり。と。い。ふ。ま。ま。出。ま。ま。女。徳。ひ。ま。ま。ま
 ま。ま。ま。ひ。く。う。た。り。あ。つ。喜。び。か。あ。ら。ま。伏。龍。鳳。雛。あ。ら。ん
 と。ま。ま。ひ。夜。の。あ。ら。ま。ま。ひ。司馬徽。み。昨。夜。あ。ら。ま。ま。な。り。ま。ま
 何。人。と。い。ふ。司馬徽。答。て。曰。ま。ま。入。ら。ま。ま。主。君。み。求。り。ま。ま。他。處

へまのつたりの。玄徳その名を問たまへを。司馬徽好くといひて
 大いなる。玄徳又伏龍鳳雛のあん人ぞと問たまへ。司
 馬徽が曰く。好く。玄徳再拜して。やまはるる。不才か
 りといふ。孫がくも先生也。新野よもあひ行よも漢
 室でたまけ真まへ。司馬徽曰く。某の山野閑散の人
 あり。世間に出く物の用。立きどののゆる某の十倍たり
 人うあらず。將軍を扶けせん。よろしく尋ねたまへ。玄徳
 又伏龍鳳雛といひたまへ。司馬徽好々といふ。大い笑
 り。とたは童子えりのきたりて。今一人の大將。百
 騎を率して。某の家とて。圍ひ。玄徳打驚やま。うま出
 と伺ひ。えま。趙雲ありん。喜び對面して。あまよく来を

るそと問たまへ。趙雲が曰く。某夜前あり。来ひて。尋ね
 たる。ある人といふ。晩方。官ある人といひ。馬を乗水
 鏡先生の家に入たり。とやせしめ。あまよせ。来ま。恐
 らく。某の辺の百姓。の害とあす。とひや。新野へ。樹
 へり。あま。とす。あま。実もと。司馬徽。別とあり。馬と
 とも。と。回りたまへ。

玄徳新野遇徐庶

玄徳馬を早めて。廿里。つり。出たまへ。二手の勢。とら。と。地ま
 たり。なま。驚ひ。入たまへ。ま。張飛が。尋ね。来。ま。あ
 ま。又。関羽が。二軍。きたり。と。檀溪と。わ。り
 し。新野。入り。諸大將。と。あ。め。り



新編 源氏物語 卷之四

て。たつらるる。謡をうたふて。きかるる。その。の。り。の。あ。り。し。て。馬と。と。あ。ま。つ。ら。る。る。た。ま。は。の。謡。と。曰。く。

天地及西億号火欲殂

大度将崩一木難扶

四海有賢号欲投明主

聖主搜賢号却不知吾

と。う。た。ひ。て。の。り。と。大。又。笑。ひ。ら。る。る。ば。玄。徳。ん。と。ま。の。司。馬。徽。が。い。ひ。の。伏。龍。鳳。雛。の。一。人。あ。る。べ。し。と。と。も。か。ま。ら。れ。を。馬。と。う。た。う。と。立。む。久。城。中。に。も。あ。い。帰。り。と。い。う。あ。る。人。ぞ。と。名。と。問。ふ。と。い。ふ。と。曰。く。某。の。類。上。の。單。福。と。い。ふ。もの。あ。り。久。く。皇。叔。の。賢。と。ま。の。孫。た。た。ま。ひ。と。き。ひ。く。仕。ん。為。ま。さ。た。り。た。り。玄。徳。り。だ。う。あ。く。ま。喜。び。酒。が。ま。さ。ち。上。賓。の。禮。と。め。め。め。め。あ。り。な。す。の。單。福。や。り。の。あ。ま。り。の。君。の。乗。な。す。の。馬。と。孫。が。く。の。一。見。い。と。ん。と。て。

鞍とをうして庭上より引出させ。その馬は千里の能あり。と。ま。ま。う。あ。ら。ず。出。崇。と。あ。り。ひ。と。い。ひ。ら。る。る。ば。玄。徳。の。曰。く。も。ま。の。辛。た。目。の。あ。り。と。檀。溪。と。の。が。ま。た。ら。る。の。馬。の。力。あ。り。單。福。が。曰。く。と。ま。の。主。と。ま。と。く。へ。ら。あ。り。崇。と。あ。ら。ず。と。ま。と。ま。の。卒。と。一。度。の。崇。と。い。ひ。ま。ま。の。崇。と。ま。の。禍。の。ぞ。く。法。あ。り。玄。徳。の。曰。孫。が。い。ふ。ま。ま。の。單。福。が。曰。く。ま。の。馬。と。ま。の。近。習。の。人。の。借。り。の。ま。の。人。出。崇。と。受。と。の。ち。の。君。の。り。た。ま。り。と。の。の。り。と。相。あ。り。ら。る。る。ば。玄。徳。の。曰。く。と。ま。の。喜。び。と。い。ひ。て。人。が。よ。び。て。點。湯。と。い。ひ。ま。ま。の。單。福。が。曰。く。某。久。く。君。の。賢。人。と。求。め。の。あ。り。と。ま。の。千。里。と。遠。と。せ。ざ。り。と。と。ま。の。ま。ま。の。馬。と。い。ひ。と。ま。の。點。湯。と。い。ひ。と。の。あ。り。と。と。ま。の。容。と。追。立。た。な。す。と。玄。徳。の。曰。く。汝。

と。ま。の。千。里。と。遠。と。せ。ざ。り。と。と。ま。の。ま。ま。の。馬。と。い。ひ。と。ま。の。點。湯。と。い。ひ。と。の。あ。り。と。と。ま。の。容。と。追。立。た。な。す。と。玄。徳。の。曰。く。汝。

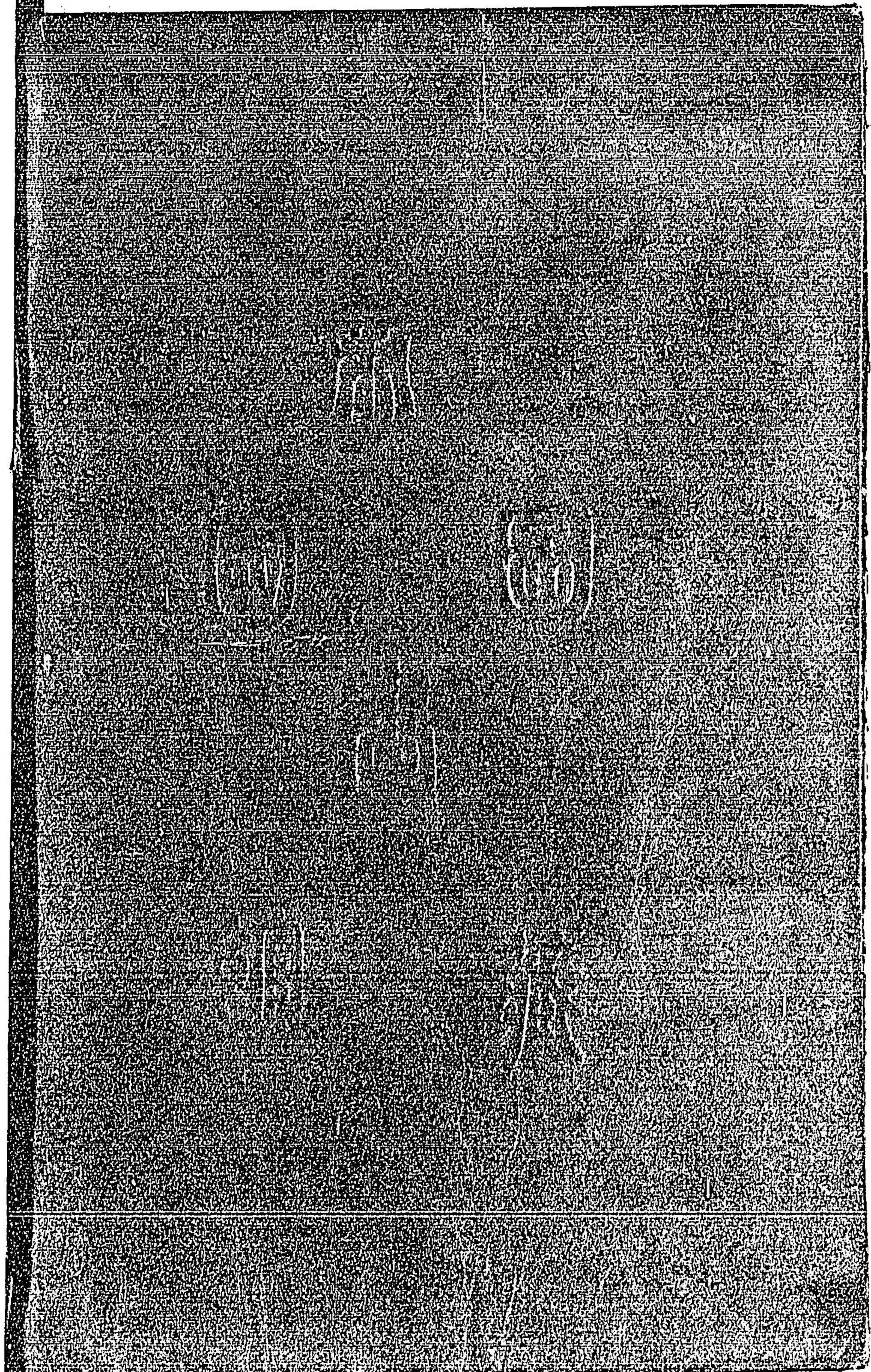
と率て左に備へ敵の中路を截り張飛の軍を引て右に備へ
 敵の後に塞め趙雲の君を守護して面より迎ふべし如する
 と死に必敵の大將を生取んとて手配せざるは定まりぬ
 とあひくは打立玄徳の二千余騎にて單福趙雲を
 とやあひの三里をり出張したまふ山際より烟嵐を
 ひて呂曠呂翔が五千余騎風擁してきてせきたる
 玄徳大音のびてきたるものなるぞとぞ響けり無
 禮なることありとよびりたすは呂曠の馬を
 乗せしとやんかひと曹丞相の命を受つてきたる
 汝を擒ます玄徳の曰くは罪ありとぞ汝の漢を背く逆賊
 ある呂曠が曰く罪ありとあふとぞ汝の漢を背く逆賊

あつて馬より刀で受よ玄徳もあつて趙雲
 出よと下知せらるれを趙雲鎗でひねりて鬼出三三
 合戦ひが呂曠あつて敵すべきたる一鎗は突殺さ
 る呂翔あつて膽をひて叶とあつてひげん敵軍をひ
 いて逃たりと途のうらやうの一手の勢討て出よ
 又まゝなる大將手は青龍刀でひねりて閻利あつて
 りて汝を待と久くと名乗るは追討は成るべ討るも
 の殺なまらず呂翔あつて逃れと十里をり走りぬ
 又一鹿の軍馬路とまゝ入りて燕人張飛あつてよ
 がる声雷のごとく呂翔を馬より斬り落しと立く様
 だりしとあつて五千余騎とまゝ一勢のまゝあつて

討つたまはし。樊城さしく落ちて行。玄徳の單福が兵ども
ちゆふまは法あつていふなりあき喜び。いふへゆへ
敵まへたまふ。

繪本通俗三國志三編卷之四終

122
74
28



122
174
28

繪本通俗三國志

三編
四